

# 北興化学工業のあゆみ

北興化学工業は、「野村鋳業株式会社」の製薬部門が独立して、1950年2月27日に創立しました。「グリニャール反応」をコア技術に、農業・ファインケミカルの2つの事業を柱として発展を続けています。

## 1950年 創立



創立当初の留辺薬工場

当社発祥の地は、北海道常呂郡留辺薬(るべしべ)町(現北海道北見市)に設置した留辺薬工場です。

当工場は、創立時に野村鋳業株式会社から譲渡され、1969年まで農業製品の製造を続けました(現在は北海道滝川市に移設)。

「北興」の社名は、当社が産声をあげた地が北海道であること(「北海道で興きた」)に由来しています。

## 農業事業の始まり

野村鋳業株式会社において培われた技術を受け継ぎ、当社製品の第1号である「撒粉ボルドー」(銅殺菌剤)の製造、販売がスタートしました。

また、有機合成反応技術「グリニャール反応」を駆使して、稲のいもち病に高い効果を発揮する農業(殺菌剤)を開発し、製造を開始しました。



## ファインケミカル事業の原点

当社は、わが国で最初に「グリニャール反応」による有機金属化合物の工業生産を成功させました。この得意とする反応技術を活かして、農業以外の分野でも、社会・産業に貢献できる化学製品を提供できないだろうか、という想いから始まったのが、現在の主力事業の一つ「ファインケミカル事業」です。

## 繊維資材事業への進出

2019年にグループ会社となった村田長株式会社は、繊維資材の専門商社として、原料からの素材開発、独自の付帯加工を行い、その製品は自動車・家具などの産業用繊維資材、靴・靴・衣料などの消費者用繊維資材で幅広く活用されています。

当社と村田長は、両社のスキル・ノウハウ・ネットワークを融合することでシナジー効果を発揮し、グループとして事業分野・領域の拡大と付加価値の創造を図っています。

## 農業事業

### カスガマイシンを開発

奈良県の春日大社の土壌から発見された微生物が生産する抗生物質「カスガマイシン」をカスミン剤として、1965年に上市しました。「カスガマイシン」は、極めて安全性が高く、その誕生以来50年以上の歳月を経た現在でも使用される、稲や野菜・果樹などの病害に効果の高い殺菌剤です。世界40か国以上で農業登録を取得しています。



## ファインケミカル事業

### 事業の育成強化

ファインケミカル事業が独立した一部門として歩み出したのは、塩化ビニール安定剤原料の製造を始めた1969年からです。

「グリニャール反応」技術を活かし、この事業を2本目の柱に発展させるため、1970年代にファインケミカル事業の育成に注力。1970年代後半には、全社売上高の1割を占める日が間近いところまで成長しました。



## 優れた製剤技術

当社は、農業の効力を最大限に発揮させるとともに、より安全で、簡単に散布ができるよう、高度な製剤技術により、様々なタイプの製品を提供しています。

1990年代にMeiji Seikaファルマ(株)と共同開発した箱施用剤「Dr.オリゼシシリーズ」は、溶出制御技術により、薬剤を田植え前の育苗箱に散布するだけで、田植え後の生育期に発生する病害虫を防除できます。



## 幅広い分野に製品を提供

1970年代後半からは合成香料原料、医薬原料・中間体、1980年代には主力製品であるホスフィン系有機触媒トリフェニルホスフィン(TPP)の製造を開始。その後、機能性高分子原料などを手掛け、2000年代には自動車排ガス浄化触媒用原料を発売しました。

現在は、樹脂、電子材料、医農薬分野などに製品を提供しています。



## イプフェンカルバゾンを開発

水稲に対する高い安全性を示し、稲の主要雑草「ノビエ」に対する高い効果と優れた残効性を示す「イプフェンカルバゾン」を開発し、ウィナー剤として2014年に上市しました。その後、カチボシ剤、キマリテ剤、ジャイロ剤、カイリキZ剤とラインアップを拡大しています。

海外では、2014年に韓国で登録を取得して販売を開始し、台湾、ベトナム、インド、タイ、インドネシアなどアジア諸国での登録に向けて試験を実施しています。



## 生産能力の増強

事業部門の順調な業績を背景に、2002年には、ファインケミカル製品の生産拠点として中国江蘇省に張家港北興化工有限公司(子会社)を設立しました。2009年には第2工場を増設しています。

また、岡山工場においては、2009年に合成第8工場、2019年に合成第9工場を建設し、生産能力を増強しました。今後さらなる飛躍を目指しています。



## 2020年 創立70周年

当社は、2020年の創立記念の日をもって創立70周年を迎えました。当社グループも多くの変化を経ながら成長を続けてきました。

これから30年先の100周年を見据え、創立以来脈々とつながる“ものづくり”の伝統を活かしながら、あらゆる変化に挑戦し、未来を切り拓いていきます。

## 沿革

- 1950年 2月 北興化学株式会社を設立。本社を東京都千代田区に設置。北海道常呂郡留辺薬町(現北見市)に留辺薬工場を設置し、農業の製造・販売を開始。
- 12月 本社を北海道札幌市に移転。
- 1953年 11月 商号を北興化学工業(株)(現商号)に変更。
- 12月 本社を東京都千代田区に移転。岡山県玉野市に岡山工場を設置。
- 1954年 11月 神奈川県鎌倉市に中央研究所を設置。
- 1961年 3月 新潟県新発田市に新潟工場を設置。
- 1963年 4月 ホクコーバーダル(株)(現北興産業(株))を設置。
- 1966年 11月 中央研究所(現開発研究所)を神奈川県鎌倉市から同県厚木市に移転。
- 1967年

- 12月 美瑛白土工業(株)を設立。
- 1969年 1月 本社を東京都中央区に移転。
- 1970年 1月 北海道滝川市に滝川工場(現北海道工場)を設置し、留辺薬町から移転。
- 1972年 1月 ファインケミカル部を設置(現ファインケミカル事業グループ)。
- 1982年 3月 静岡県榛原郡相良町(現牧之原市白井)

- に静岡試験農場を開設。
- 1985年 9月 北海道夕張郡長沼町に北海道試験農場を開設。
- 1987年 5月 東京証券取引所市場第一部上場。
- 1989年 7月 開発研究所敷地内に化成研究所を設置。
- 1991年 8月 ホクコーパックス(株)を設立。
- 2002年

- 8月 中国江蘇省に張家港北興化工有限公司を設立。
- 2009年 12月 岡山工場にクリーンルームを備えた多目的合成工場(合成第8工場)を建設。
- 2012年 7月 ドイツミュンヘンにミュンヘン事務所を開設。開発研究所に中間実験棟を建設。
- 2015年 1月 本社を現在の東京都中央区日本橋本町に移転(8月登記)。

- 2016年 5月 米国にCHOKKO CHEMICAL AMERICA CORPORATIONを設立。
- 11月 新潟県北蒲原郡聖籠町に新潟工場第二工場を建設。
- 2019年 1月 ベトナムに試験農場を開設。
- 3月 村田長(株)の全株式を取得し子会社化。
- 11月 岡山工場に合成第9工場を建設。